

## 潰瘍性大腸炎：内科治療はどこまで可能か

司会 東京慈恵会医科大学附属柏病院消化器・肝臓内科 大草 敏史  
東邦大学医療センター佐倉病院内科 鈴木 康夫

潰瘍性大腸炎治療においては、最終的に手術に移行する難治例が少なくないが、その手術を回避すべく、免疫調節剤や血球成分除去療法の応用拡大さらには生物学的製剤、抗菌薬療法、プロバイオティクス療法の登場など、さまざまな内科治療が開発されてきている。本ワークショップでは、新たに開発された内科治療を中心に、従来の治療法の工夫も含めて、1年以上の長期予後、手術率などを発表していただき、内科治療の進展と限界を明らかにしたい。内科のみならず外科を含め多くの発表が寄せられることを期待する。